

県立高校再編整備計画

平成29年度～平成32年度実施計画 (案)

平成29年3月

山口県教育委員会

平成29年度～平成32年度実施計画（案）

本計画は、再編整備による特色ある学校づくりの推進、これまでの各高校への入学者数の状況及び今後の入学者数の見込み、さらに、中学校卒業者数の減少状況などの観点から、各学校の再編整備実施時期を検討し、策定しました。

1 再編整備

(1) 全日制課程

ア 再編統合

対象校	再編整備	内 容
光 高 校 光丘高校	再編統合	○ 光高校と光丘高校を再編統合して、新高校を設置する方向で検討します。 ○ 生徒の大学等への進学ニーズや能力・適性、興味・関心等に対応した選択幅の広い教育を展開するなど、より質の高い特色ある学校づくりを推進します。

イ 分校化

対象校	再編整備	内 容
西市高校	分校化	○ これまで入学者数が定員を割り込む状況が続いており、生徒にとって魅力ある学校づくりを進める中で、入学状況などを見ながら、分校化に取り組めます。

(2) 定時制課程


多部制の定時制課程を置く高校の設置

対象地域	再編整備	内 容
県 央 部	多部制の設置に向けた準備	○ 新山口駅周辺に午前部、午後部、夜間部を併せもつ3部制の多部制の定時制高校を設置する方向で検討を進め、引き続き、その設置に向けた準備に取り組めます。

※ 施設整備等を行う必要があることから、県央部多部制の設置は平成33年度以降となる見込み

※ 県央部多部制の設置に合わせて、引き続き、全県の夜間定時制課程の再編統合について検討

対象地域	再編整備	内 容
県西部	多部制の設置及び夜間定時制課程の再編統合	<ul style="list-style-type: none"> ○ 下関中央工業高校跡地に午後部と夜間部を併せもつ2部制の多部制の定時制高校を設置します。 ○ 生徒の多様な学びのニーズに対応し、生徒が自分の生活時間に合わせて学ぶことを可能とするなど、柔軟な教育システムの構築を進めます。 ○ 多部制の定時制高校の設置に合わせて、下関西高校、下関工科高校及び下関商業高校の夜間定時制課程の生徒募集を停止します。

県立	下関西高校<夜間部>		多部制の定時制高校 <午後部・夜間部> (下関中央工業高校跡地)
	下関工科高校<夜間部>		
市立	下関商業高校<夜間部>		

※ 下関中央工業高校跡地には、下関総合支援学校高等部を移転・併置

(3) 通信制課程

より柔軟な教育システムの構築を図るため、引き続き、現在ある通信制課程を県央部の多部制の定時制課程を置く高校に併置する方向で検討を進めます。

2 計画の進め方

(1) 計画の推進にあたっては、今後、小・中・高等学校の保護者など関係者の意見も聴きながら、具体的な学校づくりやその実施時期等について検討して、これに取り組みます。

(2) 各年度の実施分については、中学生に早期に情報提供する必要があることから、原則として当該年度の募集定員の発表前に公表します。

その際、再編整備実施の時期、学科構成や、分校化の際の本校とする学校などについて公表します。

[資料]これまでの再編整備の状況

全日制のみ

年 度	対象校	再編整備の内容	新 高 校	設置学科	学級数	定員	
平成18年度	柳井商業高校	再編統合	柳井商工高校	会計ビジネス	1	40	
	柳井工業高校			情報ビジネス	1	40	
	徳山商業高校			機械・制御	1	40	
				建築・情報	1	40	
	徳山工業高校	再編統合	徳山商工高校	総合ビジネス	1	40	
				情報ビジネス	1	40	
				機械	1	40	
				情報技術	1	40	
	萩商業高校			環境システム	1	40	
				総合ビジネス	2	70	
	萩工業高校	再編統合	萩商工高校	国際情報	1	35	
				機械	1	35	
電気				1	35		
建設工学				1	35		
平成19年度	安下庄高校	再編統合	周防大島高校	安下庄校舎	普通	3	105
	久賀高校			久賀校舎	福祉	1	35
	大嶺高校			再編統合	青嶺高校	普通	2
	美祢工業高校	機械	1			40	
		電気	1			40	
	平成20年度	坂上高校	分校化	岩国高校坂上分校	普通	1	40
広瀬高校		分校化	岩国高校広瀬分校	普通	1	40	
鹿野高校		分校化	徳山高校鹿野分校	普通	1	40	
徳佐高校		分校化	山口高校徳佐分校	普通	1	40	
熊毛南高校上関分校		募集停止					
田布施農業高校大島分校		募集停止					
徳佐高校高俣分校		募集停止					
奈古高校須佐分校		募集停止					
平成22年度	田布施農業高校	再編統合	田布施農工高校	生物生産	1	40	
	田布施工業高校			食品科学	1	40	
				環境土木	1	40	
平成23年度	大津高校	再編統合	大津緑洋高校	大津校舎	普通	3	120
	日置農業高校			日置校舎	生物生産	1	30
				生活科学	1	30	
	水産高校			水産校舎	海洋技術	1	30
					海洋科学	1	30
平成24年度	防府商業高校	工業科の設置	防府商工高校	商業	3	120	
	徳山北高校			情報処理	1	40	
				機械	2	80	
	佐波高校	分校化	徳山高校徳山北分校	普通	1	40	
平成25年度	美祢高校	再編統合	美祢青嶺高校	普通	2	80	
	青嶺高校			機械	1	40	
				電気	1	40	
平成28年度	下関中央工業高校	再編統合	下関工科高校	機械工学	2	80	
	下関工業高校			電気工学	2	70	
				建設工学	1	40	
				応用化学工学	1	35	
	奈古高校	分校化	萩高校奈古分校	総合学科	1	40	

※「設置学科」「学級数」「定員」は、再編時のものです。

県立高校再編整備計画

平成29年度～平成32年度実施計画（素案）

に対するパブリック・コメントの概要

県立高校再編整備計画 平成29年度～平成32年度実施計画（素案） に対するパブリック・コメントの概要

1 パブリック・コメントの実施状況

(1) 募集期間

平成28年12月22日（木）から平成29年1月25日（水）まで

(2) 公表方法等

県のホームページに掲載するとともに、県庁情報公開センター、各地方県民相談室、山口県税事務所防府分室、各県立高等学校及び県立中等教育学校で自由に閲覧できるようにしました。

(3) 意見の提出方法

郵送、FAX、電子メールにより意見を募集しました。

2 意見の件数

13人、48件

(内訳)

項 目	件 数
平成29年度～平成32年度実施計画（素案）	
1 再編整備	35
(1) 全日制課程	
ア 再編統合	(14)
イ 分校化	(10)
(2) 定時制課程	
(3) 通信制課程	(11)
2 計画の進め方	2
小 計	37
その他	
再編整備全般に係る意見	7
その他の意見	4
小 計	11
合 計	48

() は内数

3 提出された意見及びこれに対する考え方

次ページに掲載

県立高校再編整備計画

平成29年度～平成32年度実施計画の策定に係るパブリック・コメントの概要

■ 平成29年度～平成32年度実施計画（素案）の内容に係る意見（37件）

意見の内容	意見に対する県の考え方
<p>1 再編整備 (1) 全日制課程 ア 再編統合（14件）</p>	
<p>【光高校と光丘高校の再編統合に係る意見】</p>	
<p>○ 少子高齢化が進展する状況の中で、両校の再編統合の方向性そのものは、教育力の確保という面から、やむを得ぬものと考えます。</p> <p>○ 少子化により、統合は避けて通れないものと思う。</p> <p>○ 県東部中学生の減少率を見ると、即座に対応する状況であると考えます。</p>	<p>○ 中学校卒業生数の減少が見込まれる中、選択幅の広い教育や活力ある教育活動の展開、生徒同士が切磋琢磨する環境づくりなど、高校教育の質の確保・向上を図るためには、特色ある学校づくりを推進するとともに、一定の学校規模の確保をめざし、再編整備を進めることが必要であると考えています。</p>
<p>○ 新高校の場所は、光丘が有力との意見もあるようだが、陸上競技場や野球場、雨天練習場などスポーツ施設の整った光高校での開校を希望する。</p> <p>○ 仮に光丘校舎を使用することになった場合、野球場や陸上競技場など、設備をどのように考えているのか。</p> <p>○ 再編統合にあたっては、同窓生や地域の方々の感情にも配慮してほしい。</p> <p>○ 統合後の高校跡地をどうするかも御一考いただきたい。</p>	<p>○ 再編整備にあたっては、2ページの「計画の進め方」の項に記載しているように、小・中・高等学校の保護者など関係者の意見も聴きながら、具体的な学校づくり等について検討します。</p>
<p>○ これから入学する生徒にとって何が最善かをしっかり考えて検討してほしい。</p> <p>○ これから入学してくる若者たちのために活力ある学校教育を提供してほしい。</p> <p>○ 新高校においては、新しいカリキュラムの作成や部活動の活性化など、子どもたちが入学したくなるような魅力ある学校づくりに取り組んでいただきたい。</p> <p>○ 新高校には、普通科、総合学科に加え、ぜひとも体育コースを設置していただき、県東部のスポーツの優秀な子どもたちを集めてもらいたい。</p> <p>○ 光高校OB、光市民としては、新高校が学業、スポーツともに素晴らしいと注目される高校になることを期待している。</p>	<p>○ 再編整備にあたっては、何よりもまず、主役である生徒に質の高い高校教育を提供するという視点に立つことが重要であると考えています。</p> <p>光高校と光丘高校については、再編統合して、新高校を設置する方向で検討し、生徒の大学への進学ニーズ等に対応した選択幅の広い教育を展開するなど、より質の高い特色ある学校づくりを推進します。</p> <p>また、2ページの「計画の進め方」の項に記載しているように、小・中・高等学校の保護者など関係者の意見も聴きながら、具体的な学校づくりについて検討します。</p>

意見の内容	意見に対する県の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ○ 再編統合にあたっては、地元に着し、地域から愛されている両校の伝統を引き継いでほしい。 ○ これまでの光高校、光丘高校の卒業生の思いをしっかりと受け継いだ学校にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校・学科の再編整備に取り組む中で、各学校の歴史や伝統、地域の特性等を踏まえた特色ある学校づくりに努めます。
<p>1 再編整備 (1) 全日制課程 イ 分校化(10件)</p>	
<p>【西市高校の分校化に係る意見】</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 高校がなくなると地域は活力が失われていくのではないかと心配している。形は変わっても豊田町に西市高校が残ると聞いて安心した。 ○ どこかの学校に統合されると思っていたが、分校化ということで少し安心した。 ○ 少子化の影響で、分校化されるのは仕方がないと思うが、廃校にならないようお願いする。 ○ 西市高校の施設は充足しているので、他校と合併して施設の有効利用ができるようにしてほしい。 ○ 分校化というよりも校舎化を要望する。「○○分校」ではなく、「○○校舎」という名称にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校卒業生数の減少が見込まれる中、選択幅の広い教育や活力ある教育活動の展開、生徒同士が切磋琢磨する環境づくりなど、高校教育の質の確保・向上を図るためには、特色ある学校づくりを推進するとともに、一定の学校規模の確保をめざし、再編整備を進めることが必要であると考えています。 「県立高校再編整備計画」では、1学年2学級の学校について、生徒の通学実態等から望ましい学校規模の確保をめざした近隣の学校との再編統合が困難な場合には分校化を検討することとしています。 西市高校については、様々な観点から検討した結果、近隣の高校との再編統合は困難であると考え、入学状況などを見ながら、分校化に取り組むこととしました。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 魅力があり、入学志願者が増えるような学習内容、教育課程の編成を考えてほしい。 ○ 公立の大学等への進学にも対応できる学校づくりをしてほしい。 ○ 農業の重要性を重視し、県の西部の農業を中心とした学習ができる高校として残してほしい。 ○ 地元との連携が保てるように、連携事業を強化して地域の活性化につながるようにしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 再編整備にあたっては、生徒のニーズを踏まえた教育を提供するという視点に立つことが重要であると考えています。 2ページの「計画の進め方」の項に記載しているように、小・中・高等学校の保護者など関係者の意見も聴きながら、具体的な学校づくりについて検討します。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「魅力ある学校づくりを進めるとともに、分校化に取り組みます」の意味がよくわからない。存続するのかどうか、矛盾しているようにも聞こえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 御意見を踏まえ、わかりやすく修正しました。

意見の内容	意見に対する県の考え方
1 再編整備 (2) 定時制課程 (3) 通信制課程 (11件)	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 県央部における多部制の高校は理解できる。 ○ 県内に1校しかなかった“午後部”の実績から多部制を設置することは理解できる。 ○ 県央部に検討される“午前部”の必要性の根拠がよくわからない。他県の定時制午前部の成果も、本県で今後有効なのかははっきりしないと思う。 ○ 安易に“午前部”の定時制を設置するのではなく、まずは都市部の全日制課程に、柔軟な教育課程と学習環境をもつ教育の場を拡充していくことが大事だと思う。 ○ 他地域の定時制課程の高校の再編統合には、地域の実情を踏まえた上で取り組んでほしい。 ○ 定時制課程の現状をしっかりと把握した上で、この案が検討されているのだろうか。 ○ 現在定時制空白区域である北浦地域などへの新設にも努力してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定時制・通信制課程は、以前からの「働きながら学ぶ」生徒に加え、不登校経験者や全日制課程からの転入学者、中途退学者など、様々な入学動機や学習歴をもつ生徒が学ぶ場となっています。 こうした生徒の多様な学びのニーズに対応し、生徒が自分の生活時間に合わせて学ぶことを可能とする新しいタイプの多部制定時制課程の設置に取り組みます。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 下関市に生徒が自分の生活時間に合わせて学習できる、新しい学校ができると聞き大変興味をもっている。子どもたちが、いきいきと学習できるような学校ができることを楽しみにしている。 ○ 定時制教育では、「1クラス10～20人の定員」が、丁寧な教育と質の確保を行うための数である。定員40名に近い学級が“午前部”や“午後部”にできたとしても、後期中等教育の“質”は保障も向上もできないと思う。 ○ 特別支援学校が併置される例は、山口県では未知の領域である。実際に教育活動を行う教職員や、進学予定の本人・保護者を含め事前にしっかりと協議する機会を設定してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 再編整備にあたっては、生徒のニーズを踏まえた教育を提供するという視点に立つことが重要であると考えています。 2ページの「計画の進め方」の項に記載しているように、小・中・高等学校の保護者など関係者の意見も聴きながら、具体的な学校づくりについて検討します。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 下関地域の多部制高校は、定時制だとしても全日制との時間差があまりなく、私学を圧迫する可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県教育委員会では、県立高校と私立高校が、それぞれの特性を踏まえ、連携しながら公教育の充実に取り組む中で、より質の高い高校教育の推進に努めます。

意見の内容	意見に対する県の考え方
2 計画の進め方（2件）	
<p>○ 県民からの意見募集の他に、住民・関係者・専門家からの直接の意見聞き取り等の実施をお願いする。</p> <p>○ できるだけ早く新しい学校の情報を提供していただき、中学生が安心して志願先が選択できるよう配慮してほしい。</p>	<p>○ 2ページの「計画の進め方」の項に記載しているように、小・中・高等学校の保護者など関係者の意見も聴きながら、具体的な学校づくりや実施時期等について検討します。</p> <p>各年度の実施分については、中学生に早期に情報提供する必要があることから、原則として当該年度の募集定員の発表前に公表します。</p>

■ その他の意見（11件）

これらの他に、次のような御意見もありました。今後の参考にさせていただきます。

再編整備全般に係る意見（7件）	
○ 集団教育の必要性や学習環境の効率化のため統廃合は仕方のない流れである。	
○ 部活動や学校行事などを考えると、規模の小さな学校を残すよりもある程度の規模の学校として統合した方が、子どもたちの学習環境としてはよいと考えている。そのために高校の数が減少していくことはやむを得ない。	
○ 柳井地区においても、県東部の中学生数を考慮すると、スピーディに再編整備による対応を図っていくのは必須である。	
○ 生徒が減少したから、しそうだからと安易に統合を進めているように見える。学校の統合は最後の手段であり、まずは県の出先機関を統合廃止すべきものとする。	
○ これまでの再編統合と同様に全体的な印象として、単純な「効率」や「対費用効果」としての再編整備計画と感じる。	
○ これまで行った統廃合が地域に及ぼした影響について、検討されているのか。	
○ 高校存続の運動があれば、町立高校、市立高校にできないか検討をしてはどうか。	
その他の意見（4件）	
○ パブコメについては、意見募集期間に年末年始も含めた上で、かつ同時期に他部署も実施する中で通常と同様の1ヶ月の期間設定は短いと感じる。意見募集について、期間の延長又は再実施を求める。	
○ 今回の意見募集の広報・記事の扱いがどの程度あったのか。一般県民が広く目にする新聞にどう広告掲載・記事掲載したのか。	
○ 実績・見込みなどの具体的な数値無しで計画（素案）のみ提示されても判断が困難である。	
○ 可能であれば年代は元号と西暦を併記してほしい。	